

2020年度（令和2年度）事業報告書
(2020年(令和2年)4月1日～2021年(令和3年)3月31日)

認定特定非営利活動法人こまちぷらす

I 事業の活動方針

法人運営8年目となる2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策に常に注意を払いながら、実施できる事業内容を臨機応変に変更しながらの取り組みとなった。コロナ禍という特殊な閉塞感の中で、各家庭にて子育てが孤立しないよう家庭内までリーチできるよう、Webシステムを利用した新たな事業に積極的に取り組んだ。事業収入の柱である「こまちカフェ」においては、医療崩壊を回避するために感染拡大を防ぐべく店内飲食を状況に応じて中止・人数制限し、テイクアウトの弁当や総菜・焼き菓子を次々と開発するほか、イベントスペースのレンタルを自粛・人数制限する等、状況に応じた対応を進めた。

具体的には以下の4点に力点を置いて対応してきた。1点目に、スタッフや関係者、来店者の安心・安全を確保するために、検温・消毒・換気を徹底し、在宅勤務を可能な限り活用する等対策を取りながら、場を開き続けたことである。そのために、オンラインでの打ち合わせや情報共有が不自由なくできる環境整備にも力を入れた。また、これまでカフェの場に集うことで行っていた各種イベントをオンラインで可能な限り実施し、多くの子育て層が情報交換や新たな学びを得られるように実施した。子どもたちとオンラインで一緒に遊ぶ事業を新たに実施する等、自粛期でも子育てを親が一人で抱えることがないよう少し肩の力が抜けるような事業の展開を試みた。2点目は、産前から出産直後の地域とのつながりを切れ目なくサポートしていくことである。緊急体制を敷きながらではあるものの、ウェルカムベビープロジェクトでのプレママ・プレパパ講座をオンラインを活用することで実施、緊急事態宣言中でも訪れることのできる戸塚の子育て応援ルームとことこでは、産前産後の情報提供、そして産後早い時期での人とのつながりがその後の社会参加や自己実現を豊かにするとの考えから、「産後1か月ママの会」を月1回、オンラインで開催した。産後間もない親子が集まる場を作り、安心して話せるだけでなく日常生活や社会参加に対するニーズもとらえていくことを試みた。3点目に、WAM助成金を活用し、日本各地に「居場所」と「対話の場」を設けられるようにする仕掛けづくりを行った。各地で継続して葉っぱを使った「対話の場」を実施できるようファシリテーター養成を実施した。コロナ禍の状況に合わせて、当初予定のなかったWEB上での「葉っぱ」を利用した対話を行うためのシステムを構築した。4点目に、これまでよりも商店会や近隣住民とのつながりを得たことや、SNSの活用方法を再検討したこと、オンラインショップにより認知される層が広がったことが挙げられる。このことが、直接的にはテイクアウト販売や菓子類の新規開発にもつながったほか、まち全体で子育てを支える基盤づくりにつながっていく機会の一つとなった。

尚、2020年度のコロナ禍での財政面での窮地を脱することができたのは、多くの助成金やたくさんの方々のご寄付によるものであったことを特記したい。

<事業内容>

I 子育て情報の提供

1. 地域子育てカレンダー事業

- ・内容：【概要】地域の子育て情報を、地域子育て支援拠点との連携により収集しネット上に毎月100～200件ほどデータベース化しネット検索できるよう掲載。地域別、テーマ別、キーワード毎に検索ができるようになっている。自宅からなかなか出られない出産直後や転入など、地域情報にたどりつき辛い子育て当事者に向けて、地域の施設が発行しているチラシ情報をネット上で検索できる状態にすることで、

孤立の解消につなげることが狙い。拠点運営法人より受託、実施。

【今年度の成果】

4名のこまちパートナーの方にチラシを元に入力をしていただき、最終チェックをした上でチラシデータを掲載して公開してきた。今年度は、緊急事態宣言により予定されていたイベントがなくなり、前半期は入力したイベントを削除する作業が多かった。加えてイベント入力の件数も減ってしまった。しかし、オンラインによるイベント開催が増えてきたことにより、「オンライン」というカテゴリを新設した。そして、チラシに掲載されている個人情報をWEB上に掲載することを避けるべく、チラシに掲載されている情報の見直しも行った。これらは、入力をしながら気づいたパートナーの皆さんからの積極的なご意見によるもので改善されたものである。また、戸塚区子育て支援拠点とつとの芽を中心とした「とつとあぷり」やこそだてカレンダーで閲覧するときのそれぞれの見え方をチェックして入力を工夫してみたり、携帯電話で見る場合の閲覧方法の確認をしたりするなど、一層より多くの情報を見やすく発信したいという思いが高まり、入力の工夫などをメンバー同士で意見交換をすることが増えてきた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区内
- ・従事者人員：5名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ40,000名程度
- ・支出額：84,485円



2. とつとあぷりの子育て応援ルームとことこ 情報スペース運営事業

- ・内容：【概要】年間約1万人以上が来場する、戸塚区役所内にある子育て情報発信及び託児機能をもつ施設において、情報発信スペースの運営を拠点運営法人より受託、実施。1人の情報コンシェルジュが常駐し、月間100件ほどの相談を傾聴、区役所の窓口含め必要な支援や情報に案内している。ベビーカーレンタルや体重計の貸し出し等も実施している。

【今年度の成果】

緊急事態宣言下でも感染対策を工夫しながら、日々の運営を続けた。感染拡大の状況に応じてプレイスペースの人数制限や時間制限を設け、検温・手指の消毒を促しや入れ替えの時のおもちゃの消毒も毎回行うなど、日々対策を行った。また、外国籍の方がとことこに興味を持った際に部屋に入りやすいように「世界9カ国のこんにちは」を作成し入り口に掲示した。二人乗りベビーカーのレンタル開始前には、「ふたごみつごの会」会員より声を集めて写真と併せて掲示する等、周知を図った。子供を預けたい養育者に向けて「預かりチャート」を作成し、活用を始めた。区報にも取り上げられたほか、区役所窓口や拠点等でも利用していただけるよう共有した。ひとり親に関する情報は、より手に取り易くなることを見込み外ラックに配架した。とことこリーフレットをリニューアルした他、とことこ便り「はじめのいっぽ」を創刊し、とことこのさらなる活用と広報に力を入れた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町16-17

- ・従事者人員：7 名
- ・受益対象者：のべ 8088 人
- ・支出額：1,788,618 円

II. 子育てをしている人、子ども、地域の人が思いを言語化し、つながりをサポートする場づくり

- ・内容：【概要】日祝日を除く毎日（月曜日～土曜日）戸塚駅から徒歩7分のところで「こまちカフェ」という居場所を運営。飲食の提供、雑貨の販売、イベントを通して子育て中の母親のリフレッシュや外出動機への創出、仲間づくりのきっかけづくり、気持ちを言語化できる機会づくり、新たな情報や視点との出会いの場をつくっている。当事者や支援者・企業・行政等様々な主体の人の「ニーズ」や「できること」が集まり、コーディネーションをしながら活気のある場をつくっている。この部門では主に、飲食の提供を通じた豊かな居場所づくりをしている。

【今年度の成果】

新型コロナウイルス感染防止対策として、換気や消毒を徹底して行い、日々安定して居場所を運営ができるよう注力した。中でも飲食においては、感動のあるメニューが子育て当事者にとってのリフレッシュや外出動機にもつながると考え、メニュー開発を行った。オリジナル米粉スイーツ、ビスコッティ、ジャムクッキー、tamatebako といった新作や、焼き菓子の詰め合わせなどの販売なども開始した。来店が難しい状況の方でも、こまちカフェの商品を楽しんだり雰囲気味わったりできるよう、オンラインショップを開設した。「こまちカフェの音」「リモートショッピング」「手紙」などの特色のある商品も考えた。また、子育て当事者により情報が届くよう SNS などの配信、LINE 公式アカウントの配信を強化。楽しんで閲覧してもらえるよう動画での配信も行った。「こまちぷらすチャンネル」「コップチャンネル」、「インスタライブ」などを行った。子育て層に限らず、世代を超えて沢山の方に参加できる機会を作り事業を進めた。学生ボランティアやインターンの受け入れを行い、地域とのつながりを紡いでいくカフェとなるよう努めた。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：40 名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 5040 名程度
- ・支出額：10,891,703 円



III. 社会から孤立しがちな当事者・支援する人の学びあい事業

1. 「でこぼこの会」（発達障がいをもつこどもの親を対象に情報発信・イベント実施）

- ・内容：【概要】毎月1回、お子さんの発達に不安を持つ親、支援者、当事者の方が集まり、お話会と依頼した

講師による勉強会を交互に開催。

【今年度の成果】2020 年度はコロナ禍でも開催できるにはどうしたらいいかを考え、Zoom を利用したオンラインでのお話会や勉強会を開催した。オンラインでの開催は今までリアルでは参加できなかった県外の方やコロナ禍で学校や療育がお休みになり、悩みを話せる場所がなかった方に参加していただけた。9 月以降は感染予防対策をとり、人数を制限してカフェのイベントスペースでお話会を開催。勉強会はたくさんの方に参加していただきたいので、オンラインで開催した。初めての試みとして、でこぼこの会のアンケートやお話会で集めた参加者の声を葉っぱにするために、「みんなの声を聞いてみよう、ワーク&おしゃべり会」を開催した。区内で親子支援をしている団体の集まりの会「ポンテ」にも月一回参加し、情報交換に努めている。

- ・日時：4 月 3 日、5 月 10 日、6 月 5 日、7 月 3 日、8 月 1 日、9 月 4 日、10 月 2 日、11 月 6 日、12 月 4 日、1 月 8 日、2 月 5 日、3 月 6 日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3 名
- ・受益対象者：区内外の母子中心に、のべ 60 名程度
- ・支出額：43,385 円

2. ケアラズカフェ「えんがわ」

- ・内容：【概要】子育てと介護といったダブルケアの方を対象に、思いを話し合う機会や、介護や認知症等について理解をすすめる機会を開催。

【今年度の成果】

子育て世代が直面する親の介護について、必要な情報に出会えることや自身の思いを話し合える場とすること、「子育ても介護も一人で抱えない」「介護者が自分自身を大切にする」ことを目指し活動した。2020 年度はこまちカフェでの対面イベントの開催が難しい状況を踏まえて、年度前半はオンラインでの開催に力を入れた。具体的な実施内容としては、ダブルケアについての勉強会や、介護経験者をゲストにお呼びしての講演会、看取りについてのお話会等を実施。

- ・日時：4 月 18 日、5 月 14 日、6 月 12 日、7 月 27 日、8 月 29 日、9 月 19 日、11 月 16 日、12 月 18 日 1 月 25 日 2 月 12 日、3 月 15 日（計 11 回開催）
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：1 名
- ・受益対象者：子育て中の方、介護中の方、支援者等、のべ 65 名
- ・支出額：36,900 円

3. 「～不登校・ひきこもりの親ができること～ほっとひと息金曜日」

（不登校・ひきこもり学齢期児童の家族向け事業）

- ・内容：【概要】月 1 回金曜日午前または土曜日午後に、不登校ひきこもり児童・生徒（学齢期）の家族の方が
- ### 【今年度の成果】

事業の立ち上げ 3 年目となった 2020 年度は、引き続き不登校・ひきこもりの子を育てた経験のある方の話を聞いたり、不登校経験をした当事者の方の話を聞いたりすることで、気づきや安心感を得、子どもを取り巻く大人が自信と元気を取り戻すことができるよう努めた。4 月から 8 月まではオンライン

で開催。横浜市近辺にお住まいの方だけでなく、他県の方に参加いただけた。9月以降カフェイベントスペースでの開催を再開し場で実際に会ってお話することの大切さを改めて感じた。12月にはオンラインでの講演会を開催。不登校の子どもたちの外出機会、学びの機会づくり、居場所について来年度開催に向け準備を始めた。戸塚区ふれあい助成金の助成を受け、地域との連携を深めながら実施。こまちパートナーや不登校経験の子を持つ先輩お母さんたちがボランティアとして活動を支えてくださった。ポンテという区内のネットワークの会にも月一回参加し情報交換をしている。

- ・日時：4月24日、5月29日、6月20日、7月31日、8月21日、9月19日、10月23日、11月27日、11月19日、12月22日、1月29日、2月20日、3月19日
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町 及び ZOOM を利用したオンライン開催
- ・従事者人員：2名
- ・受益対象者：不登校児童の親、支援者など、のべ67名
- ・支出額：52,229円

IV. 社会とつながりたい人が社会で活躍できる場・貢献の場を見出すためのチャレンジ事業

1. 特技を活かし、地域に貢献を考える子育て中の母親に対するサポート事業

- ・内容: **【概要】** こまちカフェにて、イベントスペース・カフェスペースの貸出を通して起業支援や情報発信支援を実施。

【今年度の成果】

2020年度は新型コロナウイルスの影響で、4月～8月の5か月間、レンタルスペースの貸出しを休止し、イベントが開催できない事態となった。その間、親子が社会と遮断される状態にならないよう、カフェの場と各家庭をつなぐことができないかと考え、様々なオンラインイベントや、オンラインとリアルが融合したイベントを試みた。さらに、イベントを安全・安心に行うことができ、カフェの雰囲気オンラインで十分にお伝えできる場としてのイベントスペースをつくろうと、地域の方の協力を得て改装工事を実施した。コロナ禍においても、のべ36名の方にレンタルスペースをご契約いただき、こまちカフェの場で、またオンラインで情報発信や地域の子育て中の親子が仲間を作る機会を共につくってきた。ベビーマッサージやヨガなど親子で体を動かす講座、各種セミナーや座談会、食や手作りなど生活に密接したイベント、おもちゃひろばや季節に合わせた遊びなど、子育て中の親子が興味関心をもつ多様な講座を展開するとともに、主催者の活動の場を広げることができた。毎月1000部発行しているイベントチラシは、イベント情報だけでなく、こまちカフェを知らない方に足を運んでいただけるような内容となるよう配慮した。パートナー(ボランティアメンバー)の協力も得て、戸塚区内を中心に約44か所の施設・店舗に配架している。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：4名
- ・受益対象者：起業、教室開催を考えている方及び一般市民等、のべ830名程度（オンライン参加者を除く）
- ・支出額：1,478,811円



リニューアルしたイベントスペース



オンラインとリアルの同時開催おしゃべり会



こまちカフェ イベントカレンダーチラシ（毎月発行）

2. 子育て中の母が特技を活かし生きがい及び仲間づくりのために作成した飲食物・手づくり品の販売

- ・内容：【概要】こまちカフェ内スペースにて、子育て中の方を中心とした市民がつくった手づくり雑貨を販売。地域の方の外出動機の創出につながり、また、子育て中の方々の得意が活きる場づくりにもつながっている。0か1ではない働き方（自宅にいながら働ける一つのスタイル）の提案の場にもなっている。

【今年度の成果】

新型コロナウイルスの影響で、カフェ来店が難しくなっても作家各々が在庫管理や売上の把握をしやすくするため商品リストをWEB上で確認できるように仕組みを整えた。また作家さん交流会はオンライン中心に行い、遠方作家さんとの交流もよりしやすくなった。また、通年のこまちカフェでの商品の販売のほかに、贈物展を行い、まだカフェに足を運んだことがない子育て層との接点を増やした。特に新型コロナウイルスの影響で、贈物展での開催は、人数制限などを行ったため、来店が難しい方にも楽しんでもらえるよう12月には、リアルとオンラインでの同時開催の贈り物展、3月には、オンラインのみでのイベントをはじめて行った。3月の贈り物展では、テーマを持たせ3/8の「ミモザ」にちなんで、「ミモザ」をテーマにした作品作りや、「ワークショップ」「ファッションショー」「作家さんインタビュー」など行い、イベントを盛り上げた。こまちに来店してくださるお客さんにもモデルとして、参加してもらい、お客さんと作家さんとスタッフとのコラボした企画となった。その他、店内ディスプレイは、より子育て中の方にも見てもらえるように、子育て中の方や、こまちパートナーさんに、ディスプレイや商品についてご意見を頂き、変更も行った。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：手づくり小物を地域でつくる方及び一般市民等、のべ 1180 名程度
- ・支出額：596,194 円



V. 地域の多様な主体が互いに連携・協働し、コミュニティの活性化を推進するためのコーディネート事業

1. ウェルカムベビープロジェクト

- ・内容：【概要】「子どもの誕生・子育てを歓迎する文化の醸成」を願い、出産祝いを地域の人々や企業商店とつくり、届ける事業を実施。事務局をヤマト運輸株式会社神奈川主管支店とともに務める。横浜市こども青少年局後援事業。出産祝いは戸塚区及び鶴見区在住の赤ちゃんが生まれた世帯のうち、申し込みがある世帯へ無料で、ヤマト運輸株式会社が毎月およそ 70 件（戸塚区 50 件程、鶴見区 20 件程）届けている。プレゼントは選考会にて 4 人の選考委員により認定されたものが入る。このプロジェクトの資金はすべて民間財源（協賛金や寄付、自主事業収入）でまかなわれており、行政と連携し実施している。住民や企業商店等様々な人が子育てに関わるきっかけとなるよう設計し、その関わりと連携により新たな社会インフラ（子育てが豊かになっていくようなコト・モノ・サービス・制度）を生み出していくことも目指している。一例として、このプロジェクトからおむつ自動販売機が開発され、産院とのプレママ・プレパパ教室の開催が生まれている。

【2020 年度成果】

○出産祝い部門

2020 年度の出産祝いは、戸塚区 549 個、鶴見区 207 個をお届けした。（2021 年 4 月 30 日現在、申し込み継続中につき 7 月まで発送継続予定）

まちの人からの出産祝いである「背守り」を縫う「背守り会」は、2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りの開催とはならなかったが、戸塚では 9 月より再開、10 月からは地域子育て支援拠点ととの芽に協力いただき、場所をお借りして開催することができた。「背守り会」以外でも自宅で縫ってくださる方がこまちカフェに届けてくださる等、地域の方が参加できる形でプロジェクトへ多世代の関わりが継続している。

2021 年度の出産祝いについては、コロナ禍の厳しい中、11 企業・団体の応募があり、選考の結果、全 11 社・団体からのプレゼントが決定した。

○産前部門

コロナ禍においてオンラインを使いながら居場所への参加の機会や交流の機会をどうつくるかをこまちパートナーとともに模索した。具体的にはパートナー数名と居場所づくりコーディネーターとで「オンラインお茶会」を2回開催した他、企画を出し合う会、「おしえてパートナーさんの会」など対話の機会を持った。毎月の「パートナー登録会」や「パートナーぶらす交流会」をオンラインとカフェとの両方で同時開催。2020年度は、27名がパートナー登録、7名がぶらす交流会に参加した。短時間の軽作業をする「もくもくの会」をはじめ、商品の外販売、お菓子作りの手伝いなどのべ83名のパートナーの力によって活動を支えて頂いた。また、全5回の連続講座「居場所づくり学びあい講座」を2期、オンライン開催をし、神奈川県内、県外のような居場所に関わる計13名が参加。本取り組みの紹介や参加者同士の交流、情報交換を行った。その他、2019年度に引き続きトヨタ財団の助成事業「市民参加促進プログラム」では県内3つの団体の皆様に向けて、集合研修と個別訪問を通じた伴走支援「学びあい研修」を実施した。「自分らしい活躍」ができる居場所が様々な地域に増えていくことを目指しながら、自団体にとっても新たな学びや視点を獲得の機会となった。

日時：通年

- ・ 場所：神奈川県横浜市戸塚区戸塚町
- ・ 従事者人員：5名
- ・ 受益対象者：乳幼児や学齢期の子どもを育てる親、地域の方、商店、企業、支援者等 のべ190名程度
- ・ 支出額：2,904,393円



もくもくの会の様子



オンライン居場所づくり学びあい講座の様子

3. 戸塚宿ほのぼの商和会事務局

- ・ 内容：【概要】約85名の会員がいる戸塚の商店会の事務局をつとめる。その事務局機能をつとめながら、子育てに必要なまちのインフラを考え提案をしている。

【今年度の成果】

一年を通じて戸塚宿ほのぼの商和会事務局を運営。定例会を年10回開催、懇親会をオンライン含め年3回開催。会員向けの情報発信としてほのぼの便りを毎月1通作成し、定例会の議事録などの情報共有をした。新型コロナウイルス感染症感染予防の呼びかけや微酸性電解水生成装置の設置し、会員をはじめ近隣小学校へ配布した。補助金を活用し戸塚区の応援チケット「シンビオチケット」の作成、宅配デリバリーシステムの開発と新たな層に商店会を利用してもらえるように開拓をした。11月には第二回ほのぼのフェスタをオンラインにて開催。YouTube配信をし、会員や地域の方との交流につながった。また、毎月12日開催のトツカデーも各店舗の判断で開催。ウェルカムベビープロジェクトの出産祝いに商店会有志メンバーからの絵本のプレゼントが選ばれ、2021年度のプレゼントの準備を始動。店舗移転や閉店などで会員数が3店舗減少したが、新規会員が21店舗増加

し、3月現在の会員数は86店舗。

- ・日時：通年
- ・場所：神奈川県横浜市戸塚区
- ・従事者人員：3名
- ・受益対象者：86名
- ・支出額：906,277円



近隣小学校へ消毒液の配布の様子



戸塚区限定商品券



オンラインほのぼのフェスタ 2020 の様子

VI. 孤立しない社会をつくるためのまちづくり・啓発・提言事業

1. おしゃべり会のデータベース化及び「対話の場」を広げるためのツール開発とファシリテーター養成

- ・内容：【概要】カフェやカフェの外で行う「おしゃべり会」（対話の場）で語られる言葉を、本人の了承を得た上でデータベース化し、自分の語りや他者との対話を通した気づきと変容を可視化する。企業や地域の施設・団体との連携によって、働いている人へのアプローチをし、ワーキングマザーが働きやすくなるような施策にもつなげる。また、そのような対話の場を各地に広げるためのツール開発・維持とファシリテーター養成を行う。

【今年度の成果】

WAM（独立行政法人福祉医療機構）の助成を受けて、「対話の場」を広げるためのツール開発及びファシリテーター養成事業に、全国各地の団体との連携のもと取り組んだ。これまでカードで行ってきた「3枚の葉っぱ」ワークショップをオンラインで開催できるウェブページを開発し、ファシリテーター養成講座は5つの地域（滋賀県長浜市、神奈川県川崎市、沖縄県北中城、兵庫県西宮市、京都府京都市）で開催し、延べ52名が参加した。様々な地域の居場で子育て当事者どうしが対話する機会や、まちの多様な立場の方どうしがお互いの声に触れる機会が増えることで、「妊娠・出産・子育てにおける不安の切れ目のない解消」を目指した。

- ・従事者人員：4名
- ・支出額：2,106,745円

2. 講演やコラム発信等、起業への働きかけを実施

- ・内容：【概要】講演や研修、調査協力、機関誌寄稿等を通した提言啓発を実施。

【今年度の成果】行政関係者、中間支援、市民団体の方、企業、学生等向けにこまちぷらすの活動やカフェでの実践等について話し、ビジョンの普及啓発に努めた。また、2020年度はオンラインでの視察の受け入れや研修の開催にも取り組んだ。

- ・日時：通年 計 18 件
 - ・平塚青年会議所（4/16 於：平塚及びオンライン）
 - ・全国社会福祉協議会情報誌「NORMA」取材対応
 - ・かわさき生活クラブ生活協同組合「やってみたい☆の育て方」（10/17 於:オンライン）
 - ・保土ケ谷区、旭区、泉区、瀬谷区 子育て支援者グループ交流会（11/12 於：横浜）
 - ・全日本自体団体労働組合 第 38 回地方自治研究全国集会（10/10
 - ・NPO 法人かながわ女性会議「M 字カーブ解消フォーラム」（12/8 於：横浜）
 - ・バンングラディッシュ大使館「Venture Café Tokyo」（3/4 於：オンライン）
 - ・川崎市中原区総合子どもネットワーク会議、中原区子育て支援推進実行委員会合同研修（3/17 於：川崎市及びオンライン）等、外部での講演や視察や取材対応を行った他、こまちぷらす主催での講演会や、企業の方向けのワークショップ等をオンラインで実施。
- ・場所：神奈川県、オンライン対応等
- ・従事者人員：6 名
- ・受益対象者：行政、団体や居場所運営者、育休中社員、子育て中の親、学生等およそ 850 名程度
- ・支出額：492,124 円